



2026年3月19日

各 位

会社名 永大産業株式会社
代表者名 代表取締役社長 枝園 統博
(コード番号：7822 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役執行役員 長友 庄一郎
(TEL. 06-6684-3062)

特別損失（連結子会社における減損損失）の計上、業績予想の修正 及び財務制限条項抵触の見込みに関するお知らせ

当社は、2026年3月期の第4四半期において、減損損失による特別損失を計上するとともに、2025年5月13日公表いたしました2026年3月期の連結業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。併せて、配当予想及び財務制限条項抵触見込みについても下記の通りお知らせいたします。

記

1. 減損損失の計上について

当社の連結子会社である EN ボード株式会社は、国内最大かつ最新鋭のパーティクルボード製造工場として、2019年5月に当社と日本ノボパン工業株式会社との合弁により設立し、2022年11月より操業を開始いたしました。

しかし、コロナ禍による操業開始の遅れに加え、新鋭工場ならではの立ち上げに時間を要したこと、さらに原材料価格の高騰等が重なり、当初の事業計画から実績が大きく乖離している状況が続いております。この結果、EN ボード株式会社においては、2023年3月期から前期まで3期連続で赤字を計上しており、当期（2026年3月期）においても、改善は進んでいるものの赤字を見込んでおります。

このような状況を踏まえ、当社は日本ノボパン工業株式会社と協議のうえ、短期的な業績の改善が困難であると判断し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、EN ボード株式会社が保有する固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として50億円を特別損失に計上する見込みとなりました。

なお、当社グループとしては、建築廃材を主原料とするパーティクルボードの普及を通じたサーキュラーエコノミーの推進を目的に、木質ボード事業を中長期的な成長領域の一つと位置付けており、この方針に変更はありません。同事業の中核工場である EN ボード株式会社においては、引き続き国内のパーティクルボード需要に対する安定供給の役割を担うとともに、生産性向上やコストの最適化に取り組み、収益改善を図ってまいります。当社グループとしても、同社の事業基盤強化を継続的に支援し、中長期的な収益力の向上に取り組んでまいります。

2. 2026年3月期通期連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	74,500	800	600	500	11.31
今回修正予想 (B)	73,500	600	400	△3,000	△67.88
増減額 (B-A)	△1,000	△200	△200	△3,500	
増減率 (%)	△1.3	△25.0	△33.3	—	
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	71,202	△293	△398	△29	△0.66

(修正の理由)

売上高については、主力である住宅資材事業が、新設住宅着工戸数の低迷の影響を受け、前回発表予想（2025年5月13日公表）をわずかに下回る見込みです。

利益面では、生産性向上や経費削減、ならびに販売価格の適正化に向けた取り組みを進めており、その結果、住宅資材事業では増益が見込まれるものの、木質ボード事業における収益改善の遅れを補うまでには至らず、営業利益・経常利益ともに前回発表予想を下回る見通しです。

さらに、EN ボード株式会社における固定資産の減損損失を特別損失として計上することにより、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想を大きく下回る見込みとなりました。

3. 配当予想

本業績予想修正に伴う期末配当予想につきましては、2025年5月13日に公表した予想値5円（年間配当金10円）から変更はありません。

4. 財務制限条項抵触見込みについて

EN ボード株式会社に係る固定資産の減損損失の計上に伴い、金融機関と締結している借入契約等に規定する財務制限条項（同社の各年度の決算期の末日における単体の貸借対照表における純資産の部の金額と親会社からの借入金の合計金額を0円以上に維持すること）に抵触する見込みとなりました。

つきましては、当該金融機関に対し、期限の利益喪失に関わる条項を適用することなく当該契約を継続するよう申し入れております。

※上記の業績予想等に関する記述は、発表日現在において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上